

# 人参

**使用産地：**北海道、茨城県、徳島県、長崎県など

## **使用目的：**

人参は発芽率が低く、乾燥・水分過多が頻繁に繰り返されると裂根や肥大不足・生理障害を生じやすいため、栽培圃場は水はけ・水持ちの良い柔らかな土を作ることが必要です。作土層は短根種で20cmから長根種で60cm以上が必要とされており、土が柔らかいほど真っ直ぐに伸び、肥大します。団粒構造を作り出す腐植を高めるためには、微生物による有機物の分解が必要になります。加えて未熟有機物は根菜類の肌に悪影響を及ぼす他、罹病した残渣と共に病原細菌などが土壤中で生存します。圃場に投入された堆肥や未熟有機物、前作残渣を微生物で分解し、腐植化を進める事で土壤の生物性・物理性の改善を図ります。

長崎県大村市では、圃場の土質により収穫の作業性が悪く、その改善のためにコフナが使用されています。ニンジンの抜き取り時間、そのあとの泥を落とす労働時間を大幅に削減することができます。(品質の安定も図っています)

## **収穫後**

散布時期：収穫後すぐに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

使用方法：残っている残渣や後作緑肥などの有機物とともに全層混和

効 果：定期的に行うことで深くやわらかい土になっていきます。

そ の 他：収穫後は水分もありますので、出来るだけ早くコフナを投入し微生物を繁殖。

## **収穫後に投入できなかった場合**

散布時期：播種までの10日～2週間前までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋以上／10a

使用方法：元肥とともに全層に混和

注 意 点：未完熟の堆肥と同時には施用しないで下さい。



北海道斜里郡斜里町の人参畑

## 徳島県

人参栽培全国第3位、春人参の主力産地においてもコフナは使用されています。



人参播種：10月下旬～12月中旬

収穫：3月下旬～5月下旬（主に4月下旬から5月）

収穫後は、水稲もしくは畑作、もしくは圃場を休ませています。

当地では乾腐病、センチュウ害の発生により、  
土壌消毒を実施、もしくは緑肥の栽培が行われています。

### <緑肥栽培でのコフナ使用方法> 排水性の向上+団粒構造の促進

緑肥播種：人参収穫後ソルゴー等播種

使用時期：緑肥すき込み時

使用数量：コフナMPSS 10～15袋/10a

使用方法：全層施肥後、土壌混和

### <薬剤消毒後でのコフナ使用方法> 土壌消毒後の微生物相の回復

使用時期：バスアミドや石灰窒素などの土壌消毒後

使用数量：コフナMPSS 10～15袋/10a

使用方法：ガス抜き後、堆肥や米ぬかなどの有機物とともに全層施肥後、土壌混和

### <前作残渣処理でのコフナ使用方法> 水田後のワラの分解+腐植を増やし団粒構造の促進

前作物：水稲

使用時期：前作収穫終了後できるだけ早く

使用数量：コフナMPSS 10～15袋/10a

使用方法：全層施肥後、分解の様子に応じて耕耘

コフナは病害が発生しにくい環境を生み出すために使用しております。そのため、肥料に関しても、有機肥料の割合を高める、土壌改善の必要性が高い部分については、コフナを大目に使用し、微生物層の改善度合いを高めるなどの方法を取っております。

## 北海道

七飯町や斜里町など道内各地で使用されています。

### 例) 七飯町



人参播種：3月初旬～ 収穫：6月下旬～7月下旬

リゾクトニア・ソラニー由来の根腐病などが発生し、当初は殺菌剤などによる対策を実施していましたが、圃場の微生物層の改善に着目し、微生物資材3商材を試しました。最も効果の高かったコフナを採用しています。

収穫を終えた圃場から10aあたり堆肥4トンとコフナMPSS60kgを散布し、残っている人参の葉と一緒に耕耘。その後ハイオーツを栽培し10月に入ってから刈り倒し、乾物重をアップしたあとに圃場へすき込みます。すき込まれた緑肥は翌春の人参播種時にはきれいに分解され、計画的な栽培と安定した出荷が継続されています。

#### <緑肥栽培でのコフナ使用方法>

緑肥播種：前作収穫後（後作緑肥）

使用時期：① 緑肥播種前 ② すき込み時

使用数量：コフナMPSS 3～5袋/10a

使用方法：全層施肥後、土壌混和



#### <前作残渣処理でのコフナ使用方法>

使用時期：前作収穫終了後～根雪前まで

使用数量：コフナMPSS 3～5袋/10a

使用方法：全層施肥後、前作残渣と合わせて土壌混和